

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ＞

御嶽山の火山活動は静穏な状態に戻る傾向にあるため、地獄谷火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、本日（23日）14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

防災上の警戒事項等：

地獄谷火口内では、突発的な火山灰等の噴出に注意が必要です。

地元自治体等が行う立入規制等に従い、また、登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

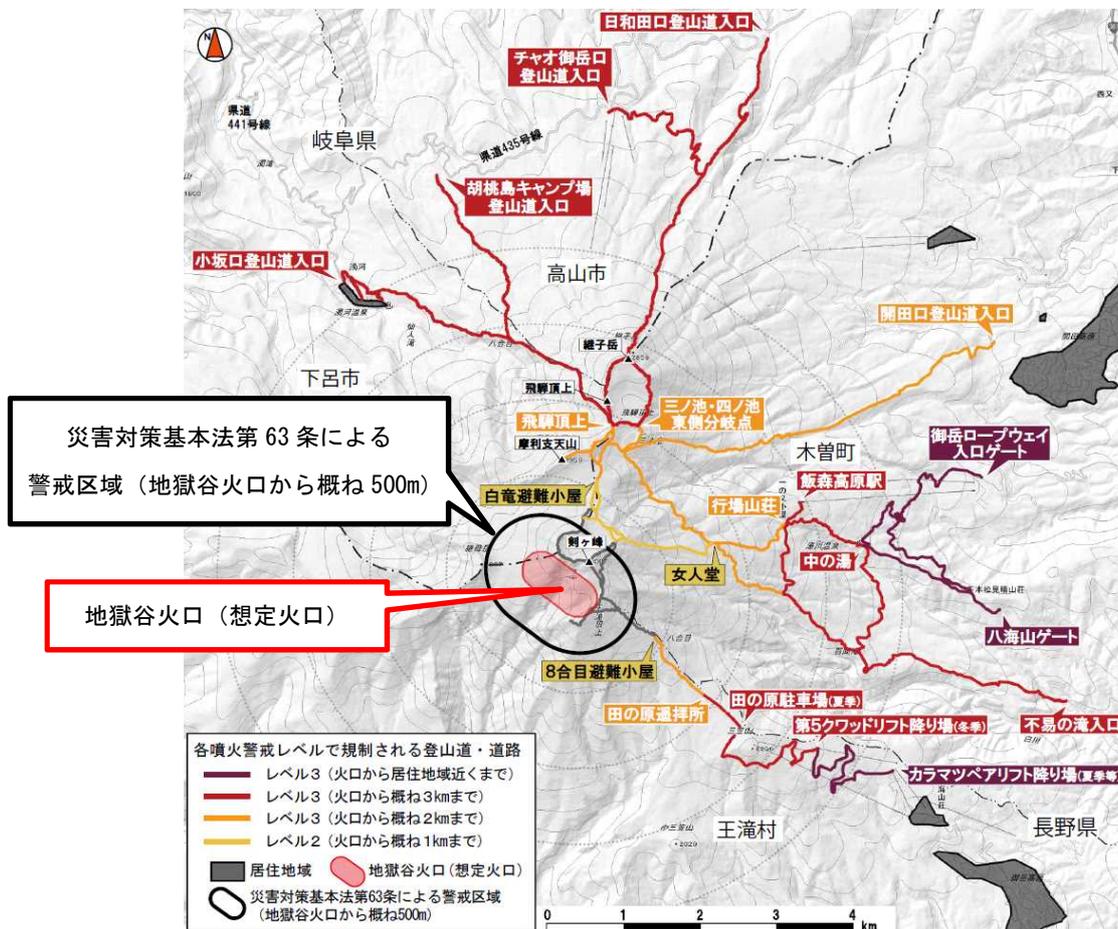


図1 御嶽山 噴火警戒レベル1に対応した規制範囲

地獄谷火口付近の登山道（——）では、地元自治体等が行う立入規制等に従ってください。

- 火山活動解説資料のページ https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
- 資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>
- 国土地理院のデータも利用して作成しています。また、資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

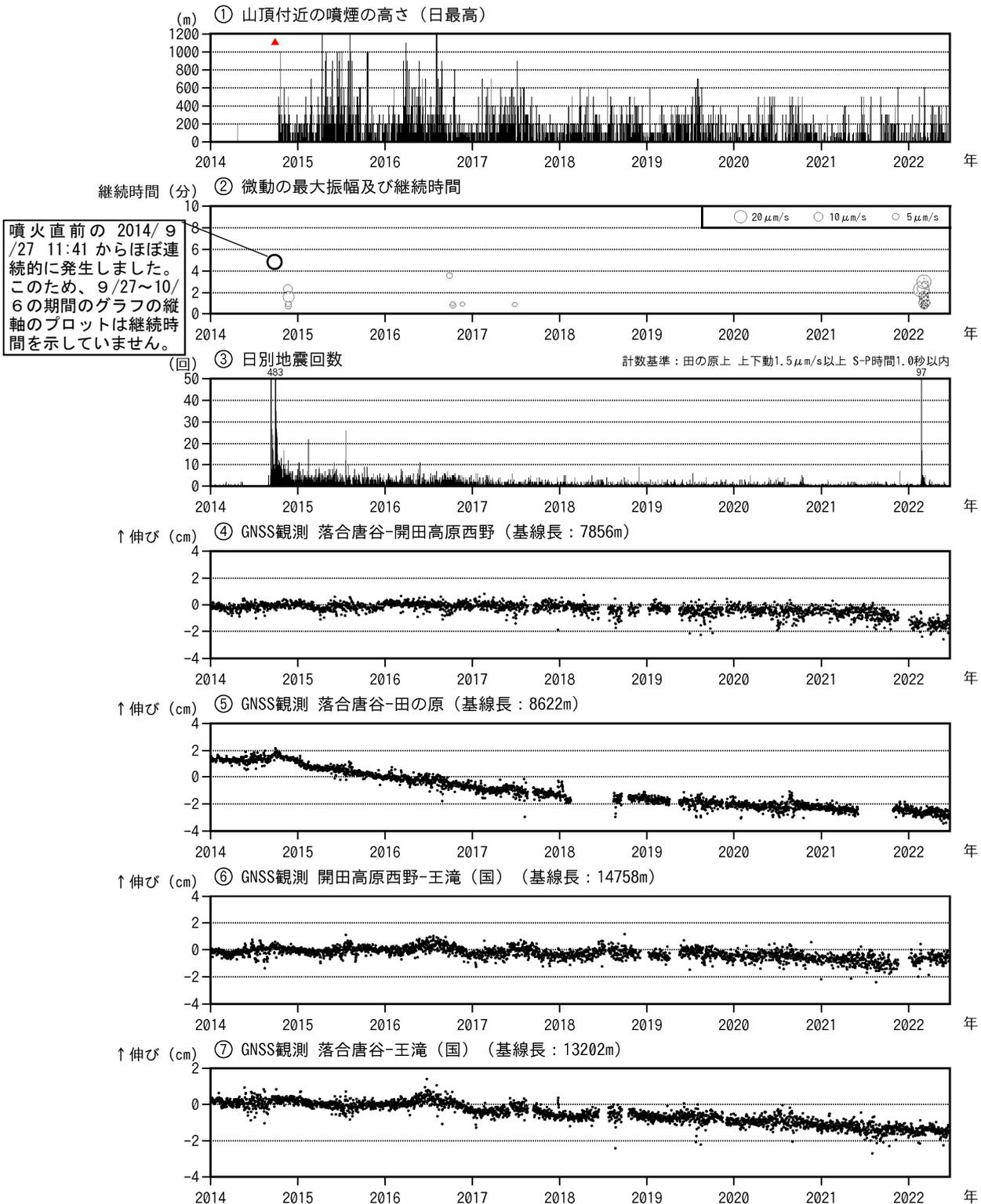


図3 御嶽山 活動経過図（2014年1月～2022年6月21日 ※ただし、GNSS観測データは2022年6月18日まで）

①赤三角は噴火発生を示します。

④～⑦は図5の④～⑦の基線に対応します。

- ・山頂付近の噴煙活動は、長期的には低下傾向が認められます。
- ・地震活動は長期的には低下傾向が認められていましたが、2月23日に剣ヶ峰山頂直下を震源とする火山性地震が増加しました。
- ・2017年7月以降、2022年1月まで火山性微動は観測されておりましたが、2月23日に火山性微動が観測されました。
- ・GNSS連続観測では、一部の基線で長期的に縮みの傾向が継続していましたが、2月下旬以降、山体の膨張を示すわずかな基線長の変化が認められました（図4）。

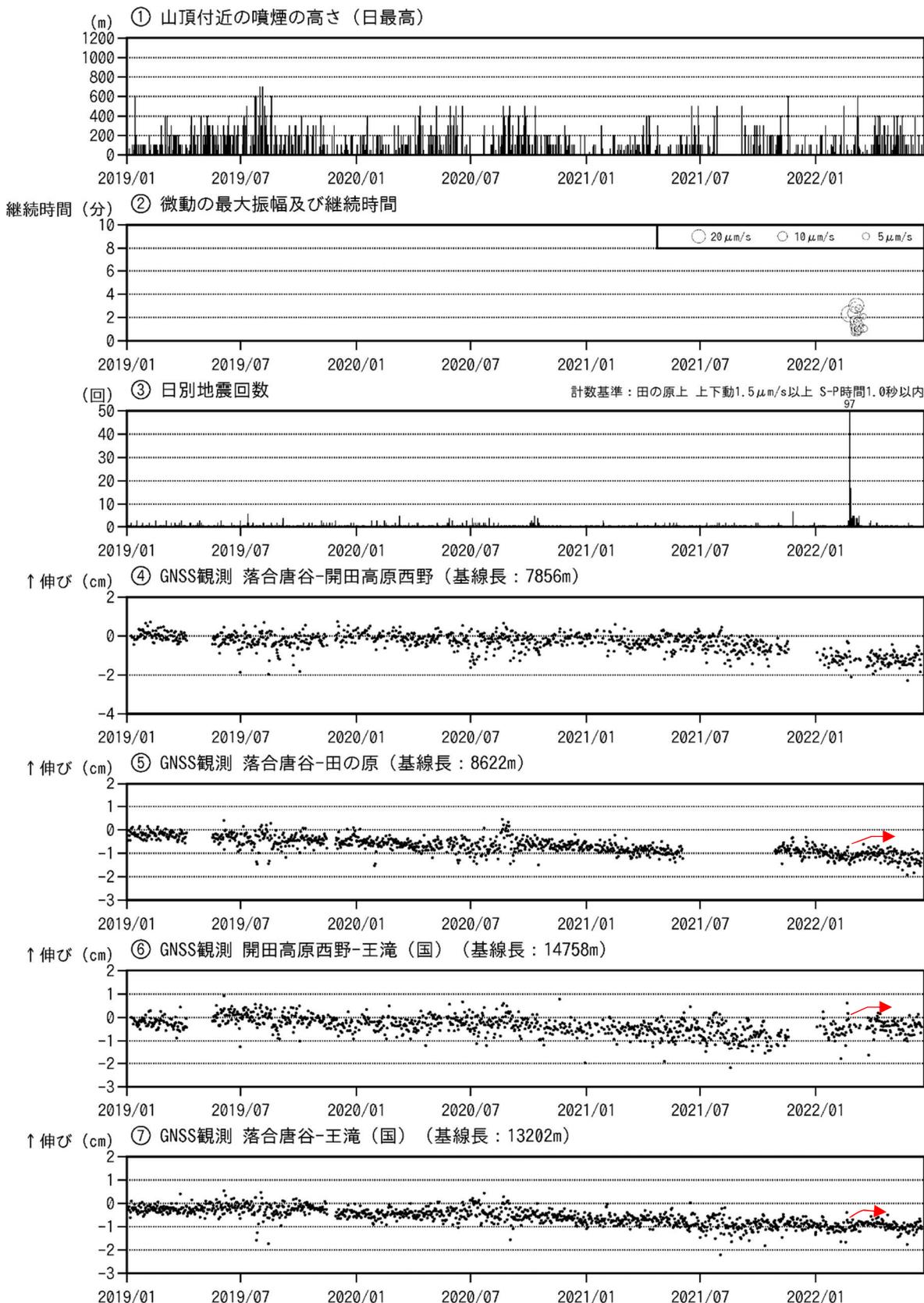


図4 御嶽山 活動経過図 (2019年1月～2022年6月21日 ※ただし、GNSS観測データは2022年6月18日まで)

④～⑦は図5の④～⑦の基線に対応します。

- ・ 2月23日に火山性地震が増加し、増減を繰り返しながら発生していましたが、3月中旬以降、地震活動は低調に経過しました。
- ・ 3月19日以降、火山性微動は観測されていません。
- ・ GNSS連続観測では、2月下旬以降、山体の膨張を示すと考えられるわずかな基線長の変化が認められましたが、4月以降、停滞しています(赤矢印)。

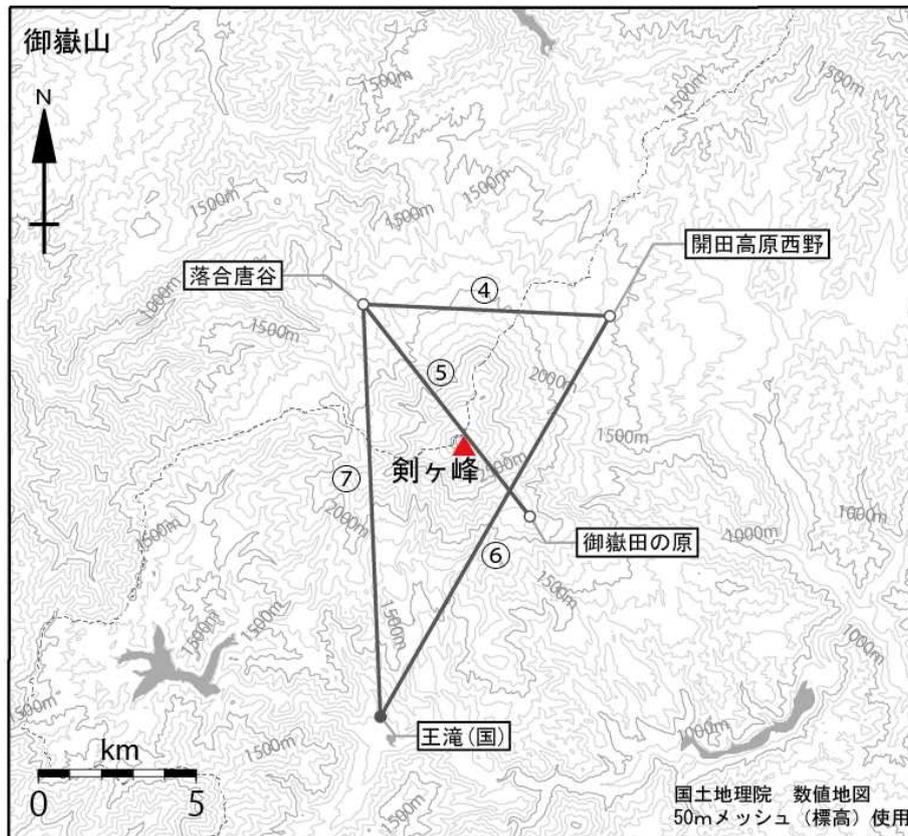


図5 御嶽山 GNSS 連続観測点と基線番号

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院

図中の GNSS 基線④～⑦は図3、4の④～⑦にそれぞれ対応しています。